

地域農業の  
未来を応援します!

**福島県  
農地中間管理機構**



**「応援します!! あなたの農業」**

# あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

|                                                |                                                                                           |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>第 6 1 号</b></p> <p><b>令和 2 年 3 月</b></p> | <p>発行元</p> <p>福島市中町 8 番 2 号<br/>公益財団法人福島県農業振興公社<br/>TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277</p> |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|

## ”令和元年度「福島県農村青年会議」を開催”

福島県農業青年クラブ連絡協議会と県、当公社の主催による「福島県農村青年会議」が、1月28日(火)に郡山市労働福祉会館で開催されました。この会議は、県内の農業青年などが一堂に会し、農業経営や地域農業の課題解決のための取り組みについて発表するもので、本県農業・農村の復興と将来を担う農業青年の資質向上を目的としたものです。

会議では、農業に関する課題解決の取り組みを発表する「プロジェクト発表」、日頃農業に携わるなかで感じていることを発表する「意見発表」が行われ、6名の若手農業者や農業を目指す学生が発表を行いました。また、「農業における事業承継について」と題して、石原中小企業診断士事務所の石原幸一氏からご講演いただきました。

「プロジェクト発表」では、「青年クラブによる食育の取り組み」を発表した、いわき農業青年クラブ連絡協議会の中村彰宏さんが最優秀賞（県知事賞）を受賞しました。

食育を通して地域の課題解決に取り組み、地域農業の発展に貢献している点が高く評価されました。

「意見発表」では、福島県農業短期大学の川村結さんが「農家じゃなくても農家になりたい」と題して、農業にかける強い思いについて発表し、優秀賞（県農業振興公社理事長賞）を受賞しました。



**表彰を受ける中村彰宏さん（プロジェクト発表）**

また、あいづ農業青年クラブの星靖啓さんが「就農5年目、新たなスタート～アスパラガス経営での挑戦～」というテーマで、試行錯誤を重ねるなかで感じていることについて意見発表し、優秀賞（農業青年クラブ連絡協議会長賞）を受賞しました。

就農者として各賞を受賞した中村彰宏さんと星靖啓さんは、今年の9月に山形県で開催される東北農村青年会議に本県代表として出場します。

なお、その他の受賞者は次のとおりです。

「プロジェクト発表」

◇ 優秀賞（県農業振興公社理事長賞）

秋山郁也（あいづ農業青年クラブ）

◇ 優秀賞（農業青年クラブ連絡協議会長賞）

増子拓也（東白川4Hクラブ）

## 令和2年度農地中間管理事業関係

～予算概算決定について～

令和2年度農林水産予算概算決定によると、『農地中間管理機構事業』は前年比100%の6,303百万円、『機構集積協力金交付事業』は前年比112%の5,737百万円となるとともに、令和元年度から始まった「人・農地プラン」の実質化に伴う予算のうち、「人・農地問題解決加速化支援事業」は前年比195%の503百万円、「機構集積支援事業」は前年比105%の3,021百万円充実されました。

また、農地中間管理機構関連農地整備事業、農地耕作条件改善事業及び強い農業・担い手づくり総合支援交付金などにおける農地中間管理事業の

活用要件やポイント加算は継続されることとなりました。特に、重点地区の指定が要件となっている農地耕作条件改善事業については、モデル産地形成を支援する「未来型産地形成推進条件整備型」とスマート農業の導入を支援する「スマート農業導入推進型」が新たに加わり、地域の多様なニーズに対応できるようになっている。

生産基盤の整備に当たっては、ソフト事業、ハード事業の一体的な活用が不可欠となりますので、一層の農地中間管理事業の活用促進にご尽力願います。

## 転貸面積は3年連続2,000ha超え

～令和元年度農地中間管理事業の実績について～

令和元年度農地中間管理事業の転貸実績は、表のとおりで、契約始期ベースで2,350haとなりました。3年連続で2,000haを超えることができ、それ以前の毎年1,000haを超える増減の実態を踏まえると、関係機関・団体のご協力により、制度が一層周知された結果であり、改めて感謝申し上げます。

今後、事業評価委員会による評価を経て、その詳細な内容を改めて公表いたします。

農地中間管理事業の転貸実績

| 転貸実績 (ha)    |                  |                  | 対 比 (%) |       |
|--------------|------------------|------------------|---------|-------|
| R 元年度<br>(A) | H 3 0 年 度<br>(B) | H 2 9 年 度<br>(C) | A / B   | A / C |
| 2,350        | 2,070            | 2,442            | 114     | 96    |

### 人・農地プランの実質化[地域の未来]のために 地域の皆さんで活発に話し合ひましょう!



農地の貸借については、農地バンクまで!

詳しくは **公益財団法人 福島県農業振興公社** ☎024-521-9846 [会津地方担当]  
(福島県農地バンク) ☎024-521-9845 [中通り・浜通り担当]  
〒960-8681 福島市中町8番2号  
または各市町村農政担当課・各JAへご相談ください。

担い手(会員)向けのコミュニティサイトを開設しました! 登録など詳しくは公社(機構)ホームページから [福島県農地バンク](#) 検索

## 農産物の販売力UPについて学ぶ！

～スキルアップセミナーを開催～

令和元年12月12日（木）、「令和元年度第1回青年農業者等スキルアップセミナー」を会津若松市生涯学習総合センター（会津稽古堂）で開催しました。

このセミナーは若い農業者の皆さんの資質向上を図るため、今年度からの新しく取り組んでいるもので、県内の若手農業者が生産する農産物の魅力をより一層県内外の消費者に伝えるため、商品の効果的なPR方法について学び、販売力向上を図ることを目的としています。

講師にPOPセンター福島の川村洋一氏をお招きし、ポップや陳列方法などによる効果的な商品のPRについて、ご講演いただきました。また、実際にポップを作成するなど、若手農業者が日頃参加している販売イベントや直売所で実践できる

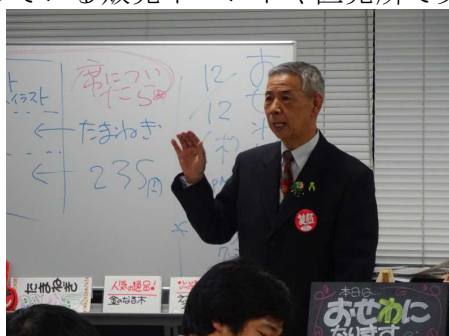


ポップ作成実習の様子

ノウハウが充実したセミナーとなりました。

参加者からは「今までは売り方のポイントなどは考えず、ただ商品を並べているだけだった。今回学んだ内容を早速実践したい。」や「先生の経験談などを交えた話がとても面白かった。また参加したい。」などといった声が聞かれました。

このセミナーは今年度3回、県内各地の会場での開催を計画しており、今後は3月12日（木）に矢吹町の福島県農業総合センター農業短期大学校、3月13日（金）にいわき市労働福祉会館で開催予定で、若手農業者や農業に携わる方はどなたでもご参加いただけますので、興味のある方はお気軽に当センターまでご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしております。



講演いただいた川村先生

## —— 地域マネージャー便り ——

福島県農地中間管理機構

双葉推進拠点

地域マネージャー 渡邊 まさとし



双葉推進拠点(双葉郡内の8町村)を担当し2年になりました。双葉地区は、大震災の影響や原発事故による避難指示区域等により、平成30年4月に県内最後の推進拠点として双葉農業普及所内に設置されました。

当管内では、営農が再開され農地中間管理事業の実績があるのは広野町と川内村で、2町村以外は、営農再開支援事業等を活用した保全管理や管理耕作が行われています。

現在、営農再開ビジョンの策定や人・農地プランの実質化と連携し、地区座談会などで農地中間管理事業に関する説明をさせていただき、農地所有者や担い手の方々の理解を得るべく努めております。農家からの主な意見は、どの地域でも課題となっている高齢化、後継者不足及び担い手不足などが話題となりますが、双葉地域では、原発事故に関連した地域特有の課題も多数あります。

農地所有者と担い手を繋ぎ、農業の復興と活気ある地域づくりを実現するため、さらには、課題解決の手段の一つとして、農地中間管理事業を推進する地域マネージャーを活用していただければと思っております。よろしくお願いいたします。



## 「農業～脱サラからの挑戦～」

白河市大信 佐藤 克也（36歳）

さな子（37歳）

東京の会社に勤めるようになってから10年が経とうとしていました。私の両親は典型的なサラリーマン夫婦です。幼い頃はいろいろな夢もありましたが、結局のところ私もサラリーマンという職業を選びました。しかし、現在の私たちは東京で勤めていたサラリーマンを辞めて農家になったのです。

私にとって農業を考えるきっかけとなったのは、結婚した妻の実家が農家だったことです。実家へ帰省するたび農家の話を聞き、自然と農業への興味が湧いて私と妻は両親の作業を手伝っていましたが、1日と持ちません。特に真夏の畑仕事は、半日も続けられず、残り半日は疲れのあまり夫婦そろって眠ってしまうほどでした。

誰にでもできる仕事ではないため、結婚当初に私は農家になろうという気持ちはありませんでしたが、後継者がいないこと、そして「何かひとつ自分にしか出来ないことをやってみたい」という思いから農業をやろうと決心しました。東京の暮らしに慣れた妻も「実家に帰って両親と祖父母の傍にいてあげたい」と賛同してくれました。経済面ではサラリーマンの時とは違い、安定した収入とはいかないですが、残業続きで家にいる時間が少なかった頃に比べて、家族で一緒にいられる時間が増えることは、なにより農家の魅力です。他にも、農家は一貫して自ら作業を行い、モノ作りをするので、自身で成し遂げた時にはサラリーマンとは違う充実感を得られます。



農家育ちでもない、都会暮らしをしていたサラリーマンだった私が、ここから何も知らない農業者になろうとしているのですから、畑違いとは正にこの事だと思いました。

ブロッコリーの栽培を主に、自身の力でやり遂げようと考えていますが、始めたばかりの素人が我が家の状況を考えると、家族経営で仕事をしていくにも人手が不足、常に忙しい状態が続いてしまいます。これからは、管理の仕方や効率的な作業を考えていくことや、少ない人数でも作業ができるやり方を考える必要があると感じています。

福島の自然と天候を相手にする訳ですから、以前より桁違いの挑戦になるかもしれません。しかし、私たちのような素人農業者でも、毎日の美味しい食卓を自分たちの手で作った農作物でより良い食卓に変えることができるのが農業の醍醐味です。

私自身も経験を積み、より美味しいブロッコリーができるよう、これから私たちの挑戦は続いていきます。

### 編集後記

この時期、年度末まで片付けなければならない仕事に追われ、気持ちが休まらない日々が続きます。そのように忙しいと、ついイライラして人に当たったり、一方的に無理な要求をしたりして、後で後悔することになります。最近雑誌で読んだことですが、そうしたとき「6秒ルール」を意識することが役に立つそうです。「6秒ルール」というのは、6秒間だけその気持ちを表に出さないよ

うに我慢することです。腹が立ってきつい言い方をしたくなったら、こころの中でゆっくりと1から6まで数を数えると、一時的に高まった怒りが自然に収まるそうです。（村松清一郎）

お問い合わせ

あて先 〒960-8681  
福島市中町8番2号 福島県自治会館8階  
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課  
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277  
URL <http://www.fnk.or.jp>